

〈研究ノート〉

## 海外と日本をつなぐ教師のしごと

大黒晃嗣

### The Teacher Connecting Japan with Overseas

DAIKOKU Akitsugu

キーワード：上海，海外日本人学校

Key Words: Shanghai, Japanese Schools Overseas

#### はじめに

平成25年度から平成28年度まで4年間、上海日本人学校虹橋校に派遣されていた。その時の上海の様子や上海日本人学校の様子、感じたことなどについて報告する。



写真1 中国 上海市

#### 1 中国・上海について

##### (1) 上海の様子

中華人民共和国の直轄市である上海市は、商業・金融・工業・交通などの中心となっており、市内総生産額は国内最大の中国最大の都市である。人口を見ると、平成25年現在、上海市の人口は約2400万人（中国国内第2位）となっており、その内訳は上海戸籍約1400万人、外来人口は1000万人を越え、世界有数の国際都市ともなっている。在留邦人の数は約4万6千人にのぼり、短期滞在者を含めると約10万人いると言われ、世界で最も多く日本人が暮らしている都市の一つである。日系企業が多数進出し、街には日本語の看板や日本料理屋さん、日系スーパーなども多数見られる。妻と3人の子ども（0才・2才・4才）を連れて上海へ赴任したが、安心して暮らせる環境が整っていた。



写真2 3人の子どもとともに

##### (2) 赴任時（平成25年）の状況

私が赴任した平成25年の前年、領土問題による反日デモが中国各地で起こり、日中関係の悪化が取り沙汰された。平成25年になってからも、大気汚染の問題が取り上げられたニュースや、鳥インフルエンザ関連のニュースなどが日本でも大きく報道されていた時期だった。日中関係、大気汚染、鳥インフルエンザ。この3点については日本にいる大勢の方に心配していただいた。

##### (3) 上海で暮らす人たち

赴任前年に起きた反日デモのことがあり、家族を連れていたこともあって赴任当初は少なからず反日感情に直面する不安をもっていた。しかし、そんな不安はすぐにかき消された。反日感情に直面するどころか、むしろ、とても親切にしてくださる方々の多さに驚かされた。我が子と電車に乗っていると老若男女問わず席を譲ってくださったり、0才の我が子を見て「今、何ヶ月？」とか「足が冷えるから靴下履かせた方がいいよ。」な

どと気さくに声をかけてくださったりするなど、子どもに対する見方の温かさを特に感じた。さらに、親日の方々の多さにも驚いた。タクシーに乗っている時や買い物をしている時に、片言の日本語を使いながら向こうの方から笑顔で話しかけてくることはよくあることだった。また、中国の方たちはとても元気でパワーがあると思った。中国の方同士で会話している姿を見ると、実際は全くそんなことはないのだが、話すスピードが速いし声も大きいので、ケンカをしているかのように見える。お互いがマシンガントークをしているようで、何を言っているかは分からないが、つい見とれてしまうことが何度もあった。

私の中で、最初は中国の方に対して「少し怖い」などマイナスの印象を抱いていたのが正直なところだったが、上海で暮らす人々と接する中で、私の中国の方に対する印象は、「子どもに優しい」「よく笑う」「元気（パワーがある）」というふうにプラスの方向へ大きく変化していった。

## 2 上海日本人学校

### (1) 上海日本人学校のこれまで

上海日本人学校の前身は、日中国交正常化の3年後にあたる昭和51年（1976年）2月7日に虹橋（ほんちゃお）にて発足した「上海補習校」である。当初は週1回の授業しか行っていなかったが、間もなく全日制の補習校となった。そして、昭和62年（1987年）に「日本人学校」として正式に設立され、現在に至っている。（平成28年度には創立30周年を迎え、記念式典が盛大に行われた。）平成17年度には2000名の大台を突破し、その児童・生徒数の増加に対応するため、平成18年度に「浦東（ふーどん）校」が開校した。浦東校に中学部全部と小学部の一部が移り、これまでの「虹橋（ほんちゃお）校」には小学部のみとなった。また、平成23年度には浦東校に日本人学校としては世界で初めて高等部が設立され、上海日本人学校は、世界でも最大級の日本人学校になっている。



写真3 上海日本人学校虹橋校玄関



写真4 始業式の様子

### (2) 児童数の変化

近年、児童・生徒数は増加の一途をたどっていたが、景気の影響からか、最近では、減少または横ばい傾向に変わりつつある。私が赴任して1年目（平成25年度）の虹橋校は児童数1538名（50学級）でスタートしたが、2年目（平成26年度）児童数1412名（47学級）、3年目（平成27年度）児童数1301名（47学級）、4年目（平成28年度）児童数1167名（44学級）と、年間100名ペースで減少していった。ちなみに、私が帰国した次年度の平成29年度は1100名（41学級）でのスタートとなっており、平成30年度も同程度の児童数になる見込みだということだった。

### (3) 赴任時の衝撃

何はともあれ、1000人を超える大規模校であることに間違いない上海日本人学校虹橋校。当然鳥取県では考えられない規模の学校だった。（ちなみに、教職員の数は中国人スタッフを加えると100名以上。その数を聞いただけでびっくり。）赴任1年目の4月、1学期着任式・始業式の日、初めて全校児童を前にした。着任教員が27名いることにも驚いたが、入学式を翌日に控えた1年生270名を除く約1250名の児童が体



写真5 着任式で話す新着任者

育館に集合している姿を目の当たりにし、その迫力にさらに驚いた。「すごい数だな。」「1年生入れるのかな。」「一番後ろの子は、前が見えるのかな。」などと思いながらステージに立っていたのを覚えている。最初は、人数の多さに不安な気持ちもあったが、27名の着任教員の話真剣な眼差しで聞いている子どもたちの姿を見ると、鳥取でも上海でも子どもたちの純粋さは同じだなとも思い、不安な気持ちが薄れていった。

### 3 上海日本人学校虹橋校の特色

#### (1) 施設

##### a) 校舎

虹橋校の校舎は、南北校舎と東校舎の2つの校舎がある。南北校舎（3階建て）には1年生から3年生、東校舎（5階建て）には4年生から6年生の教室がある。各校舎には普通教室だけでなく、それぞれ体育館や図書室などたくさんの特別教室があったり、至る所に階段やトイレがあったり、初めて通う1年生にとっては学校全体が迷路のように感じるのではないかと思う。実際、最初の頃は私も、今どこにいるのか戸惑うことが度々あった。（しかし、毎日5階まで通う6年生はすごい！）



写真6 南北校舎から見た東校舎

##### b) 各教室

各教室には、パソコン、プロジェクター、スクリーンが備え付けてあり、いつでもインターネットを開くことができる環境が整備されている。各教科のデジタル教材もパソコンにインストールしてあるので、授業に幅広く活用することができ、児童の学習理解に大いに役立っていると感じる。



写真7 充実したICT機器



写真8 水泳学習のようす

##### c) プール

虹橋校のプール（屋内プール）は、中国人スタッフによって管理され、年間を通して入ることができる。6学年で約50学級あるので同じ時期にプールを使用するのは困難なため、5月から11月にかけて各学年が使用している。また、水泳学習には毎回、水泳ボランティアとして保護者の方も来てくださる。子どもたちは、プールを管理してくださっている中国人スタッフや水泳ボランティアさんへ感謝しながら水泳学習を行っている。

##### d) 校庭

虹橋校の校庭は、外側はタータントラック（1周約200m）、内側は天然芝となっている。校庭も芝の手入れなど、中国人スタッフによってしっかり管理されている。天気の良い日は芝生の上で弁当を食べたり、休み時間にはたくさん子どもたちが出てきて気持ちよさそうに走り回ったりする姿が見られる。



写真9 東校舎5階から見た校庭

#### (2) 学習・行事

##### a) 語学（中国語・英語）

虹橋校では、語学学習として中国語と英語の学習を1年生から週に1時間ずつ行っている。



写真10 中国語の授業のようす

中国語は、合計6名の中国人講師がいて、1年生は1学級につき2名の中国人講師が、2年生以上は能力別（初級・中級2クラス・上級）に分かれてそれぞれ1名の中国人講師が本校独自のテキストを使って教えている。本校在籍児童の中には家庭で日常的に中国語を使用している児童もいて、そういう児童が多い上級クラスになると、私レベルの語学力では何を言っているのかさっぱり分からないというのが正直なところである。

英語は、3名のネイティブ講師と2名の日本人講師がいる。3年生以上は学級を2クラスに分けて学習している。（5・6年生は習熟度別）こちらも本校独自のテキストがあり、基本的にはこのテキストを使って学習を進めていくが、5・6年生では「Hi! Friends」も併用している。また、学級担任は、T2（ティームティーチングの副）として学習に入る。

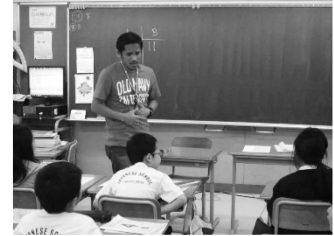


写真11 英語の授業のようす

どちらの学習も系統立てて考えられた年間計画に基づいて実施され、学習内容も子どもたちが言語に楽しく親しめるような内容になっているので、子どもたちも毎時間楽しみにしていて意欲的に活動している。

また、語学参観週間といって、中国語や英語の学習の様子を保護者の方に見ていただく機会も設けている。（年に2回の期間中、中国語・英語それぞれ各学級1回ずつ公開）

#### b) 現地校交流

学年単位で交流していて、どの学年も年に1回か2回の割合で上海市内の学校（中国の子が通う現地の小学校だけでなく、学年によっては上海市内にあるアメリカンスクールと交流する場合もある）と交流する機会を設けている。私が4年生の担任をしていた時は、呉淞第3小学校という現地の小学校と6月に交流した。相手校にバスで行き、各クラスに分かれて名刺交換を行ったり、折り紙を折ったり、歌を贈り合ったりした。子どもたちは、最初緊張しながらも、学習した中国語を使おうとする様子が見られた。交流を通して、言葉は上手く通じなくても気持ちは通じ合うことができるという感想が多くの子どもたちから聞かれ、意義のある交流となった。11月には本校に招いて2回目の交流を行った。



写真12 交流のようす



写真13 中国影絵体験

#### c) チャレンジタイム

虹橋校では、年に1回、各学年でチャレンジタイムという時間を設定している。チャレンジタイムとは、中国の素晴らしい文化に触れ、体験しようという時間のことである。1年生のチャレンジタイムでは、中国影絵の鑑賞&体験をした。鑑賞では、「登竜門」「うさぎと亀」のお話を鑑賞した。スクリーンに映し出される影絵を真剣に見つめる子どもたち。影絵の動きに見とれて、2つのお話の上演はあっという間に感じられた。体験タイムでは、好みの人形を手に取り、思い思いに人形を動かして影絵を楽しんでいた。

（このチャレンジタイム、事前の計画・準備から当日の段取り・進行まで、全て保護者で構成される学級委員さんの手によって行われる。）

d) 運動会

毎年9月に行われる運動会は、虹橋校の一大行事となっている。赤白の応援や各学年の表現種目など、日本と同様の種目を行うが、1000人以上の児童数で行う運動会は全てにおいてスケールが大きく大変見応えがあり、日本以上の熱を帯びている。この運動会のために日本から応援に駆けつける祖父母の方も多く、観覧者は2000人から3000人にもものぼる。混雑を避けるためパブリックビューイングのように体育館で校庭の競技や演技の様子がみられるようにしたり、教室を開放して授乳室としたりするなど、大規模校ならではの取り組みも行っている。



写真14 大迫力の運動会



写真15 体育館での音楽発表



写真16 教室でのフェスティバル

e) 学習発表会

運動会と並んで大きな行事の一つである学習発表会。虹橋校では、学年ごとに日にちを分けて実施している。体育館での音楽発表、教室での生活科フェスティバルを行った1年生のように、2部構成で行う学年もある。

(3) 日常生活

a) 弁当

虹橋校には給食はない。子どもたちは毎日お弁当を持って登校してくる。作ってくださっているお家の方に感謝の気持ちを込めながら毎日ありがたく食べている。(もちろん私も!) 給食と弁当、形は違えど同じ食、楽しい時間だが、私にとっては食育の時間としても大切にしていきたい時間となっていた。



写真17 弁当の時間



写真18 大気汚染レベル表示

b) 大気汚染対策

虹橋校では、大気汚染対策として一日4回(7:30, 10:20, 12:30, 14:30) pm濃度を調べ、その指数(指数はレベル分けされ、分かりやすく赤・橙・黄などの色で判別される。)に応じた対応をとっている。具体的には、赤以上の場合は全ての屋外活動中止、橙だと屋外での体育学習は行わないなどである。汚染指数によっては、晴れていても外で学習したり遊んだりできないという日が続くこともある。大気汚染の状況が子どもたちにも分かるように、児童玄関には色カードを掲示していた。また、各教室に空気清浄機を1台ずつ設置している。

c) 通学バス

虹橋校の登下校方法は、バス通学と個人通学(保護者送迎)に分けられる。多くの児童は通学バスを利用して登下校している。平成26年度、法律改正により、これまでの通学システムからの大きな変更を余儀なくされ、平成27年度当初は混乱することもあったが、約40台ものバスが毎日子どもたちの送迎を行っている。こ

れほど多くのバスが毎日学校に出入りするのです、それだけ事故などの危険性も高くなる。そこで、「安心・安全な登下校」をキーワードに、教職員・保護者が意識をそろえ、子どもたちの登下校を見守っていた。ただ、中国の交通問題があったり、バス内で起こるトラブルがあったり、課題も少なくないのが現状だった。



写真 19 下校時のようす

#### 4 上海日本人学校での勤務を通して

##### (1) 出会いに感謝

上海日本人学校虹橋校での勤務や上海での生活を通して、日本人学校に通ってくる子どもたちとの出会い、日本全国から集まった同僚との出会い、中国人の朋友（中国語で友達の意味）との出会い、中国文化との出会いなどなど、様々な出会いがあった。その全てが私にとってかけがえのないものとなり、日本に戻った今でも私の心に大きな宝物として残っている。もちろん全てが順風満帆というわけではなかったが、多くの人に支えられ、人は一人では生きていけないということを実感した。出会いの素晴らしさ、繋がり大切さを深く感じることができた4年間だった。全ての出会いに感謝している。

##### (2) よさを見つけてお互いを認め合う

上海日本人学校虹橋校は、海外にある日本人のための学校という特質から、児童の転出入が非常に激しい。親の仕事の事情が理由の大半を占めるが、年度末だけでなく、学期の途中でも何人もの子どもたちが日本や別の国へ転出したり、逆に編入してきたりする。転出入が頻繁にあるのが当たり前なのである。そのためか、虹橋校の子どもたちは、受容性の高い子が多い感じを受ける。学級には、転入してきた友達を受け入れる風土があり、子どもたちには、初めて出会う友達をクラスの仲間として受け入れることのできる優しい心がある。だから、新しい学校に不安をもって編入してきた子どもたちも、早い段階で学校生活に順応していくことが多く、互いを認め合う関係が築かれていく。また、転出していく友達に対しても同様のことが言える。虹橋校の子どもたちは、その転出していく仲間のために一生懸命お別れ会を計画し、全力で送り出す。1年間に何人も転出していく中で、どの子に対しても労を惜しまず送り出そうとする姿には本当に感動させられる。

もちろん、全ての子がこれに当てはまっているわけではなく、日本の学校と同様、様々な教育課題をもって配慮を要する子どももいるのは事実であるが、私は虹橋校の子どもたちから、「受け入れる心の大切さ」、「よさを見つけてお互いを認め合うことの大切さ」を学んだ。これは、日本に帰国した今でも、私の心に深く残っており、自身の教育活動にも大きく影響している。

##### (3) 中国と日本をつなぐ役割

縁あって、私は中国の上海という地で4年間暮らすことになった。4年間で中国語が流ちょうに話せるようになったわけでもなく、何か中国の伝統文化を習得したわけでもない。もっと深く学んでおけばよかったと後悔しているが、それでも4年間中国に住み、中国の方たちと接してきた中で、多少なりとも中国の文化や魂は私の心に浸透してきた。そして今、私にできることは、やはり中国と日本をつなぐことではないかと思う。日本の報道を見ると、中国のマイナス面だけを取り上げていることがよくあるように思う。かつての私のように、中国に対して悪いイメージをもっている日本人は多いのではないだろうか。逆に、これまでの歴史的な背景や偏った報道などから、反日感情をもっている中国人も多いのもまた事実だろうと思う。しかし、少なくとも私は、実際の生活経験から、中国のよさや中国の方たちの温かさを多く感じてきた。大切なことは、マイナス面だけを見るのではなく、お互いのよさも見つけながら、お互いを受け入れ、認め合うことなのではないかと思

う。現在の日中関係が必ずしも良好とは言えない中だからこそ、私たちのような民間レベルの交流が大きな意義をもつだろうし、大切にしないといけないと感じる。教育者として、子どもたちに自分が感じた中国のよさを伝え、中国に対して偏った見方をせず、中国や海外を身近に感じられるようにしていきたいし、一人の大人としても、交流を続けるなど、中国と日本、また海外と日本をつなぐ役割を果たしていきたいと思う。

## おわりに

日本に帰任して9か月が過ぎた平成30年1月、家族旅行で再び上海を訪れることになった。9か月ぶりの上海は、私にとって不思議なくらい心落ち着く場所となっていた。まるで、まだ住んでいるかのような感覚だった。それは、人口の多さや経済発展の著しさとは関係なく、4年間の生活の中で無意識のうちに感じてきた、上海で暮らす人々の家族のような温かさや繋がりを再び肌で感じる事ができたからではないかと思う。旅行中、言葉が通じない場面はたくさんあったが、もはやそこに日本と中国の国境はなくなっていた。人口最小県の鳥取と大都会上海。何から何まで違っていたが、どちらも私にとってはなくてはならない場所である。縁あって教師として上海に行くことになったが、教師としての資質向上はもちろん、それ以上に、これから生きていく上で大切な何かを得ることができた。

平成25年4月、妻と3人の子ども(0才・2才・4才)を連れて赴任した上海。この4年間で家族にとっても私にとってもかけがえのない貴重な経験をする事ができた。先ほども述べたが、海外と日本をつなぐことは、まさに教師としての私の大きなしごとである。もし私の話をきっかけに、子どもたちが中国や海外に興味をもち、将来海外に出て行く仕事に就いた子がいたとしたら、これほど嬉しいことはない。まさに教師冥利につきる。これからの教育活動がますます楽しみになってきた。



写真20 帰国記念に家族で

大黒晃嗣 (鳥取市立湖南学園小学校/H25年度~H28年度上海日本人学校虹橋校派遣)